

2023年3月期 第1四半期決算に関する主なご質問

- Q: 第1四半期業績はかなり良好であったが、その背景について教えて欲しい。
- A: 特に建築用ガラス事業での価格転嫁が引き続き順調であったことに加え、固定費を中心にコスト削減効果が効いてきたためです。
- Q: 建築用ガラス事業において、増益幅がかなり大きくなっているが要因は？
- A: 需給環境が特に欧州で引き続き良かったこと、ポジティブな為替影響を受けたこと、環境対応している付加価値の高いガラスが好調であった等、複合的な要因により収益性が改善しています。
- Q: 自動車用ガラス事業での価格改善を進めているという話であったが、これらの交渉を進めることで通期での黒字転換は可能と見ているか？
- A: 現在、全ての自動車メーカーとの交渉が進展しています。これらの効果は第2四半期以降に発現する見込みであり、これに加え自動車メーカーでの生産台数が回復することで黒字化が見えてくると考えています。
- Q: 高機能ガラス事業は従来より営業利益率が高いが、当第1四半期ではさらに改善しておりその背景を知りたい。
- A: 需要が強いことを受け、価格改善に取り組んだ結果と考えています。
- Q: 第1四半期の営業利益が83億円であったのに対して、上期営業利益の予想110億円達成に必要な第2四半期の営業利益は27億円となり営業利益が低下するように見えるが、理由はあるか？
- A: 第2四半期では第1四半期と同様の傾向が続くと見えますが、第1四半期では想定以上に業績が良かったこともあり保守的に見えています。
- Q: 第1四半期の好調な業績を受け上期業績予想は上方修正する一方で、通期の業績は据え置いており下期業績予想は実質減速するように見えるが、その背景は？
- A: 特定の事象を想定しているということではありませんが、金利上昇による潜在的な景気後退、建築用ガラス事業の需要の継続性やエネルギー供給不安などの不透明な事業環境を勘案し、現時点では通期利益予想は据え置いています。通期業績予想については、引き続き状況を見極めながら精査していきたいと考えています。
- Q: 欧州への天然ガス供給停止リスクへの対策について、万が一天然ガスの供給が停止した場合どの程度の拠点に影響がでるか教えて欲しい。
- A: 欧州の一部の窯では既に代替燃料での生産が可能なものもあります。エネルギーの需要が高まる秋冬に向けて適切な対策を推進していく計画です。
- Q: ファーストソーラー社のアジアにおける生産拡張方針に沿って、マレーシアにオンラインコーティング設備を新設することのだが、投資規模はどの程度と想定されるか？
- A: 既存のフロート窯を改修しますので、それほど大きな投資金額は必要ありません。投資効果が大きくなるように投資をしていく予定です。